

宛前後にも可相成候右箇所にて諸事差支無之様可致候
右の趣丹波國中へ可相觸もの也

別紙書附の趣可令承知候、那切に相觸候間村次不洩様願々相廻
し寺社并に其村の庄屋年寄印形にて承知仕候致致清書留候村よ
り京都御役所へ可持來もの也

末十二月

飛驒

和泉

丹波國桑田郡村々

寺社、庄屋、年寄

右の御觸書は北桑田郡田山村大庄屋村山氏萬覺記の中に手記さ
れたものを先日披見したものである、「伊能忠敬」による同行
の手傳以下七人は手傳坂部貞兵衛、下役永井甚左衛門今泉又兵
衛、門谷清次郎、内弟子、尾形顯治、箱田良助、保木敬藏の七人
である文化八年十一月廿七日藤澤より測量開始九年には九州に入
り二年間彼地を測量したが十年七月には手傳坂部貞兵衛福江の
客舎にて惜くも病死したが十月十一日には九州の測量を了り歸
途中國を測量したそれで文中播州姫路より但州生野道云々とい
るは文化十一年正月四日に至つて實行されたのである忠敬の
一行が丹波福知山に入ったのは同月二十四日で二月二十二日八
木につき忠敬は愛宕山を越え嵯峨に出で仁和寺邊まで測量して
同月二十六日京都に到着した、同時に永井支隊が丹後や丹波の
所々を實測したものである、この測量事業に關し官憲がいかに
前以て手を盡くしてゐたか云ふ事の沙汰として同好の志に示
めすことにした。(藤田)

雜報

新刊紹介

○理科年表(第一回) 大正十四年 東京天文臺編

發賣所 丸善株式會社 定價壹圓五拾錢

頁數三一二、大サ一〇糶五×一五糶

本年表は一般理學の教育、研究及應用に便する爲め毎年發行
せられるものの第一回のものである云ふことである。之を一
覽するに總ての物的理學(Physical Science)に關する重要なテ
ィタを掲げてある。就中曆部、天文部、氣象部を主とし之に添ふ
るに物理化學部、地學部及附録の各項目がある。其の細目に至
つては總計二百項に近く、物的理學の倉庫とも云へる程豊富で
ある。加之其のティタは最新の研究に成れる結果を採用してあ
るから他の幾多のものを涉獵することを要せずして直に採つて
調査、研究乃至は授業に用ふることが出来る、吾人地學者に取
つては其の天文部氣象部が必要であると同時に最も重要なのは
地學部である。此の部には地理、地質及礦物、地磁氣及重力、
地震並に雜項の各項があり、細目六十あり、其の各目の斬新の
ティタを取つたことは「主な海溝」の目の最深のものは昨年發見
された豆南(日本)の九九五〇米餘であり、本邦の地質系統中に
仙臺地質教室の發表採用する數島統等の新生代の漸名を擧げたり
秩父層を石炭紀に止めたり其の新しきことは寧ろハイカラ地
味である位である。新しき地學者が必ず座右に具へなければなら
ぬ年表であることはこの一二例についてでも云ひうる。地球

四五

七三

讀者がこのよき新しき年表を使用されることは切望に堪へない所である。

因に云ふ朝鮮には故和田博士在職時代より仁川觀測所編纂にかゝる日用便覽といふ小形の曆部、氣象部、地理部、雜部のある年表が發行されて居り、本年は其の第十七次のもので出て居る。この日用便覽の方は定價五十錢で、朝鮮在住者には甚だ便利なるものである。(新麗生)

質疑應答

問、ヨーロッパの運河網を描き之れにつきて知る所を記せ

答、歐羅巴は土地の平均高度僅に三百米に過ぎずして亞細亞の九八〇米(ベンク氏に依る)に比すればその三分の一以下である。而して全歐の大半は二百米以下の低地で、五百米を越ゆる地は僅に六分の一に過ぎない。高地はスコットランドからスカンデナヴィヤ半島に及ぶ北歐と、イベリヤ半島からアルプスを經てバルカン半島に及ぶ南歐とにあり、中歐には低山性の中帶山脈あれど概して平地が多い。而してこれ等の山地は幾多の河谷によりて切斷せられ、それ等の分水界は極めて低く地中海・黒海・裏海方面よりボスカヤ灣・イギリス海峡・北海・バルト海・白海方面に通ずる重要な通路をなしてゐる。ローヌ河セイヌ河ダンニユーブ河・ライン河及びエルベ河等の河谷は古くから利用された。第十七世紀の初め頃から盛に運河開鑿の事業が興つた

が、流速の緩、水量豊富、分水界の低きことは益々其の發展を促し、内地の人文發達に資する處が甚大であつた。現今に於てはフランス北部・東部・イングランドの南部・オランダ・獨逸北部等は運河の密度が甚だ大である。次表は主要諸國の水路の全長と運河の長さ及全長に對する運河の百分比を示したものである。

國名	水路全長(杆)	此中運河(杆)	百分比
フランス	一一四〇〇	八九一八	七八
イギリス	七五〇〇	五一三七	六九
オランダ	五二〇〇	三五六一	六九
ロシア	四三三〇〇	一九六二	四五
ドイツ	一四七〇〇	六六〇二	四四
イタリヤ	二五〇〇	九二〇	三七
舊埃洪	六二〇〇	四八九	八
スウェーデン	六一〇〇	四七一	八

以上の中極めて重要なもの數個を説明せん。

(一)キール運河はキール港の北方よりエルベ河口に通ずるもので、長さ九九杆、巾一〇二米深さ一米に及び、一八九五年の開通にかゝる。バルト海より北海に通ずる最短航路として軍事・交通上の價值が甚だ多い。大戦後の條約によつて運河及其の入口は獨逸國と和親の一切の國の商船及軍艦の爲に全然均等の條件にて開放せられ、且つ常に自由たるべきことを規約せられた。

(二)ルドウィヒ運河はライン河の一支マイン川の一支流レグニ